



同志社大学文化情報学部蔵無名歌集 : 翻字と解題 (2)

著者	福田 智子, 児玉 駿介, 加藤 みどり
雑誌名	文化情報学
巻	9
号	2
ページ	14-31
発行年	2014-03-31
権利	同志社大学文化情報学会
URL	http://doi.org/10.14988/pa.2017.0000014569

資料紹介

同志社大学文化情報学部蔵無名歌集

—翻字と解題(2)—

福田 智子・児玉 駿介・加藤みどり

同志社大学文化情報学部蔵無名歌集（仮称『いろは和歌集』）は、和歌を句頭の文字によって、いろは順に分類・配列した歌集である。本稿では、歌頭が「ち」「ぬ」「を（お）」「わ」「か」「よ」「た」「そ」の歌（「り」「る」の項目はない）、計 220 首（「ぬ」のみ 10 首、それ以外は各 30 首）について、『新編国歌大観』を対象に他出歌集を検した。その結果、『新古今集』『古今集』が圧倒的に多く、一方、『万葉集』は採歌対象から外れていることがわかった。また、他出歌集が唯一の場合として、『古今集』『新古今集』や『長秋詠草』『秋篠月清集』『拾玉集』『壬二集』『拾遺愚草』が挙げられる他、『源氏物語』にまとまった用例数が得られた。作者名には墨消が一箇所あり、誤りも存するが、『伊勢物語』の歌では、歌論書や古注釈に通じる作者推定が窺える。なお、出典未詳歌は 15 首存し、3 首連続する箇所があるなど出現箇所により見られる。

1. はじめに

本稿は、福田智子・児玉駿介・加藤みどり「資料紹介 同志社大学文化情報学部蔵無名歌集—翻字と解題(1)—」(『文化情報学』第9巻第1号、2013年10月)の続編である。

前稿では、歌頭が「い」「は」「に」「ほ」「と」の歌（「ろ」「へ」の項目はない）、計 141 首について、『新編国歌大観』を対象に他出歌集を検したが、本稿では引き続き、「ち」「ぬ」「を（お）」「わ」「か」「よ」「た」「そ」の歌（「り」「る」の項目はない）、計 220 首（「ぬ」のみ 10 首、それ以外は各 30 首、十五丁裏から三十七丁表にあたる。）について、同様の翻字と考察をおこなう。

2. 翻字

【凡例】

- ①和歌本文の歌頭には、(1:い1) というように、歌集全体の通し番号と、歌頭の文字ごとの通し番号を付す。
- ②本文の表記は、できるかぎり原態を生かして、

通行の字体に翻字するよう努めた。歴史的仮名遣いに統一したり、私に濁点を付したりすることは避けた。

- ③和歌の頭注と脚注の位置に記される集付と作者名は、和歌本文の後に、(頭注/脚注)の順で示す。なお、どちらか片方しか記されない場合は、記述のないことを示す記号として「—」を用いる。
- ④他出歌集の調査範囲は、『新編国歌大観』に拠り、巻数-通し番号を付した歌集名の略称と歌番号を示す。
〈例〉3-19 貫之 355『新編国歌大観』第三巻 19 番目の『貫之集』355 番歌
- ⑤本書と他出との間に、本文異同(表記の異同は除く)のある場合は、▽を付して異同を句ごとに挙げ、歌集名と歌番号を示す。
- ⑥本書の和歌本文に見せ消チ・挿入記号・傍書などの書き入れがあった場合は、〔本文注記〕の項目を設け、説明を加える。なお、傍書が見せ消チや挿入記号とともに記されている場合は、書き入れ修正後の本文を掲げる。

【翻字】

(142: ち1) ちる花のをしさをしはししらせ
はや心かえせよ春の山かせ (長秋抄/俊成)

[本文注記] 第二句「をしさそしはし」の「そ」
見七消チ。右傍書「を」あり。

1-21 新続古 170、6-129 長秋 12、4-30 久安百
812

(143: ち2) ちりぬとも香ほたにのこせ 梅花
恋しき時のおもひてにせん (古今/一)

1-1 古今 4

(144: ち3) 契りをく言葉や今は忘草人の
こゝろのかれへの色

未詳

(145: ち4) ちはやふる神代もきかす 龍田川
から紅に水くゝるとは (伊勢物語/古今にも
業平)

[本文注記] 初句「ちはやふる」の前に「は」
見七消チ。

1-1 古今 294、3-6 業平 18、5-275 百人秀 10、
5-276 百人首 17、5-293 童蒙 693、5-296 和歌
初 91、5-301 古来風 257、5-308 詠歌大 52、
5-329 桐火桶 109、5-415 伊勢語 182、7-2 業平 1、
10-177 定家八 465、10-180 五代枕 1258、10-
181 歌枕名 2417

(146: ち5) ちりもせし衣にすれるさゝ竹の
大宮人のかさす桜は

1-9 新勅撰 482、3-133 拾遺愚 2124、5-216 定
家合 200、5-319 和歌口 270、5-335 井蛙 65、
5-335 井蛙 234、6-3 題林愚 9764、10-179 正風
体 54

(147: ち6) 契りしにことのたかふとたのも
しきつらさもかくやかはるとおもへは (千載/
藤原実方朝臣)

▽ [ちぎりこし] [ことのたがふぞ] 1-7 千載
780、2-10 続詞花 618、7-20 実方 38、▽ [ち
ぎりてし] [ことのたがふぞ] 3-67 実方 295

(148: ち7) ちりぬれとまた春くれは咲ぬめ
り千とせののちはきみをたのまん

▽ [またくるはるは] [さきにけり] 2-6 和漢朗
665

(149: ち8) ちりぬれは匂ひはかりは 梅花あ
りとや袖に春かせのふく (新古今/有家)

▽ [にほひばかりを] 5-185 通親合 6、5-329
桐火桶 196、6-31 題林愚 545、10-206 歌林良
123、1-8 新古今 53

(150: ち9) ちりちらす人もたつねぬ 古郷の
露けき花に春風そふく

1-8 新古今 95、6-31 題林愚 1008、▽ [散るちらず]
4-42 仙五十 33

(151: ち10) ちりちらすおほつかなきは春か
すみたなひく山のさくら成けり

1-8 新古今 115、7-56 成伸 11、10-177 定家八
141

(152: ち11) ちりまかふ花のよそめは 吉野山
嵐にさわく峯のしら雲 (新古今/頼輔)

1-8 新古今 13、2-13 玄玉 536、5-165 治承合
81、5-328 三五記 249、7-55 頼輔 16、▽ [花
によそめは] 10-200 和歌密 16、10-210 古今注
605

(153: ち12) 散花のわすれかた見の峯の雲
そをたにのこせ春の山かせ (同/良平)

1-8 新古今 144、5-197 千五百 534、5-314 詠
歌一 61、5-335 井蛙 115、5-336 愚問賢 1、10-
177 定家八 174、10-206 歌林良 42

(154: ち13) ちりにけれあわれ恨みのたれな
れは花のあとゝふ春のやま風

▽ [ちりにけり] 1-8 新古今 155、5-197 千五百
505、5-278 自讃歌 180

(155: ち14) 散はてゝ花のかけなき木のもと
にたつことやすき夏ころもかな (新古今/慈
圓)

1-8 新古今 177、5-177 慈鎮合 9、6-31 題林
愚 165、10-206 歌林良 52、▽ [木のもとの]
3-131 拾玉 2979

(156: ち15) ちりかゝる紅葉の色はふかけれ
とわたれはにこる山河の水 (同/二條院)

1-8 新古今 540、4-31 正治初 1953、5-223 時代
不 230、10-177 定家八 456

(157:ち16) ちらすなよしの、葉草のかりにても露かゝるへき袖のうへかは(新古今/俊成) 1-8 新古今 1111、3-129 長秋 499、5-277 定十体 209、5-328 三五記 151、6-31 題林愚 6290、10-177 定家八 869、10-196 色葉和 928、▽[もらすなよ] 5-278 自讃歌 69、▽[袖の上かな] 10-213 六花注 190、▽[かり衣] [袖のうへかな] 6-27 六華集 1466

(158:ち17) 散かゝる紅葉なかる、大井川いつれみせきの水のしからみ(同/経信) [本文注記] 第三句「紅葉なかれぬ」の「れぬ」見せ消す、右傍書「イゝ」あり。▽[もみぢながれぬ] 1-8 新古今 555、10-177 定家八 485、10-181 歌枕名 572、▽[いづらみせきの] 3-96 経信

(159:ち18) ちるとみてあるへき物を梅のはなうたて匂ひの袖にとまれる(古今/そせい) 1-1 古今 47、5-329 桐火桶 48、10-196 色葉和 538、10-206 歌林良 221、2-2 新撰万 3、2-4 古六帖 4143、3-9 素性 3、5-4 寛平后 3、10-177 定家八 61

(160:ち19) 散ぬれはこふれとしるしなき物をけふこそ桜おらはおりてめ(同/—) 1-1 古今 64、3-6 業平 8、6-5 麗花集 19、7-2 業平 81

(161:ち20) ちる花のなくにしとまる物ならば我うくひすにおとらましやは 1-1 古今 107、▽[おとらざらまし] 2-3 新撰和 77

(162:ち21) ちる花をなにか恨みん世の中にわか身もともにあらんものかは(古今/—) 1-1 古今 112

(163:ち22) 千鳥なくさほの河霧たちぬらし山の木の葉も色まさりゆく(同/そせい) 1-1 古今 361、7-6 忠岑 68、10-180 五代枕 1248、10-181 歌枕名 1962、▽[色かはりゆく] 1-3 拾遺集 186、10-177 定家八 443、▽[山のこのはの] [いろかはりゆく] 3-13 忠岑 181、▽[山のもみぢば] [いろかはりゆく] 3-3 家持 267、▽[みねのこずゑも] [いろかはりゆく]

3-3 家持 241、▽[まきのこずゑも] [色づきにけり] 2-4 古六帖 4285、▽[たちぬなり] [嶺の紅葉の] [色まさりけり] 5-5 寛平中 19

(164:ち23) ちゝの色にうつろふらめとしらなくに心し秋のもみぢならねは(同/—) 1-1 古今 726、2-2 新撰万 237

(165:ち24) 散花ををしむにつけて春風の吹やるかたになかめをそする(長秋抄/俊成) 3-129 長秋 218、6-31 題林愚 922

(166:ち25) 契りおけ玉まくくすに風ふかはうらみもはてしかへるかりかね(拾遺愚抄/定家) 5-183 三百六 134、▽[風吹けば] 2-16 夫木 1672、▽[春の雁がね] 1-18 新千載 64、6-31 題林愚 1211、▽[契をば] [恨もはてで] 3-133 拾遺愚 307、▽[玉葛の葉に] [風吹けば] 6-27 六華集 113

(167:ち26) ちはやふる神代のさくら何ゆへによし野の山を宿としめけん(拾遺愚抄/定家) 2-16 夫木 1181、3-133 拾遺愚 1406、4-34 洞院百 126

(168:ち27) 千世までの大宮人のかさしとや雲井のさくら匂ひそめけん(同/同) 1-15 続千載 2107、3-133 拾遺愚 1785、5-184 老若合 65

(169:ち28) ちはやふる神に手むくる言の葉、こん世のみちのしるへともなれ(長秋抄/俊成) 3-129 長秋 472、5-162 広田合 130、▽[しるべとをなれ] 6-31 題林愚 9595

(170:ち29) 散はこそいと、桜のめてたけれうき世になにかのこりはつへき(伊勢物語/有つね) ▽[いとど桜は] [久しかるべき] 5-415 伊勢語 146、▽[いとど桜は] [やさしけれ] [うき世に何か] [久しかるべき] 5-328 三五記 240、▽[いとど桜は] [なにかうき世に] [久しかるべき] 10-212 源氏注 1649、▽[いとど桜は] [何かうき世に] [果しなれば] 10-210 古今注 152、

▽ [いとど桜は] [やさしけれ] [なにかうき世に] [はてしあるべき] 10-200 和歌密 7、▽ [いとど桜は] [ありて世の中] [はてのうければ] 10-212 源氏注 1780

(171:ち 30) ちはやふる 神のいかきにはふくつも 秋にはあえす うつろひにけり (古今/貫ゆき)

1-1 古今 262、5-274 秀歌大 76、5-301 古来風 250、10-177 定家八 448、10-206 歌林良 244、▽ [色づきにけり] 2-4 古六帖 3881、▽ [もみぢしにけり] 10-196 色葉和 741、10-212 源氏注 249

(172:ぬ 1) ぬるかうちに 見るをのみやは 夢といわん はかなき世をも うつゝとは見す (同/忠峯)

1-1 古今 835、3-13 忠岑 63、7-6 忠岑 45、10-177 定家八 639、▽ [ゆめといふ] 2-4 古六帖 2476、▽ [うつつとはいはじ] 5-376 宝物 103

(173:ぬ 2) ぬしやたれ とへとしら玉 いはななくにさらばなへてや あはれと思はん (同/河原左大臣)

1-1 古今 873、2-3 新撰和 349、10-177 定家八 1455、▽ [しらなくに] 2-4 古六帖 3187

(174:ぬ 3) 布引の 瀧も夜さむに 聲寒て 生田のをくに衣うつなり (壬二抄/家隆)

3-132 壬二 1899、▽ [いくたのをのに] 2-16 夫木 5783、▽ [こゑふけて] 10-181 歌枕名 4161

(175:ぬ 4) ぬしもなき 霞の袖を よそに見て 松浦の沖を いつる舟人 (月清抄/後京極)

3-130 月清 617

(176:ぬ 5) 布引の 瀧より外に ぬきみたり まなく玉ちる 床のうへかな (拾遺愚抄/定家)

▽ [ぬきみだる] 3-133 拾遺愚 280

(177:ぬ 6) ぬれは夢 さむれはむかふ おも影は 馴てもよその物をもへとや (壬二抄/家隆)

▽ [面かげに] 3-132 壬二 173

(178:ぬ 7) ぬきみたる 人こそあるらし 白玉

のまなくもちるか 袖のせはきに (伊勢物語/業平)

1-1 古今 923、3-6 業平 59、5-415 伊勢語 159、7-2 業平 29、10-177 定家八 1683、▽ [まなくもふるか] 2-4 古六帖 1711、▽ [ぬきとむる] 2-4 古六帖 3192、▽ [ぬきみだす] [したひもの] [またくもあるか] 2-3 新撰和 211

(179:ぬ 8) ぬれてほす 山路の菊の 露まに つかちとせを 我はへにけん (古今/そせい)

▽ [つゆのまに] 1-1 古今 273、2-3 新撰和 94、5-2 寛平菊 17、5-294 奥儀 475、5-301 古来風 251、10-177 定家八 624、10-196 色葉和 599、10-206 歌林良 78、▽ [つゆのまに] [いかで千とせを] 2-4 古六帖 3730、▽ [つゆのまに] [いかでかちよを] 3-9 素性 51、▽ [つゆのまに] [いかでかわれは] [千代を經にけん] 10-196 色葉和 218、▽ [つゆのまに] [いかでかわれは] [ちよをへぬらん] 2-6 和漢朗 553、5-291 俊頼髓 357、5-337 梵灯庵 45、5-376 宝物 47

(180:ぬ 9) ぬししらぬ 香こそ匂をれ 秋ののは たかぬきかけし ふちはかまかも (古今/そせい)

▽ [かこそにほへれ] [秋ののに] [ふちばかまぞも] 1-1 古今 241、2-4 古六帖 3727、2-6 和漢朗 290、3-9 素性 20、5-296 和歌初 88、10-177 定家八 341、▽ [かにこそにほへ] [あきののに] [ふちばかまぞも] 10-212 源氏注 305、10-212 源氏注 320、▽ [かはにほひつつ] [あきの野に] [ふちばかまぞも] 5-293 童蒙 578

(181:ぬ 10) ぬれつゝそしみておりつる 年の内に 春はいくかも あらしとおもへは (伊勢物語 古今にも/業平)

1-1 古今 133、5-301 古来風 239、5-335 井蛙 154、5-415 伊勢語 143、7-2 業平 64、10-177 定家八 191、▽ [さくらばな] 3-6 業平 5

(182:を 1) 大空に 契るおもひの 年もへぬ 月日もうけよ 行末の雲 (一/太政大臣)

[本文注記] 結句「雲」の右に「イ空」あり。5-278 自讃歌 6、▽ [行すゑの空] 1-8 新古今 1996、4-18 後鳥羽 1377

(183:を 2) 岡の辺の 里のあるしを 尋ぬれば

人はこたえぬ山おろしの風（新古今/慈圓）

[本文注記] 第四句「えぬ」の右に「イす」あり。
▽ [人はこたへず] 1-8 新古今 1675、3-131 拾玉 795、3-131 拾玉 4836、5-277 定十体 62、5-278 自讃歌 34、5-328 三五記 32、10-177 定家八 1719、▽ [人はこたへず] [山下のかぜ] 5-177 慈鎮合 117

(184:を3) おも影のはすらるましき 別かな名残を人の月にとゝめて (同/西行)

[本文注記] 第二句「はすられ」の「れ」見せ消チ。右傍書「る」あり。

1-8 新古今 1185、3-125 山家 621、3-126 西行家 649、5-386 西行文 177、6-27 六華集 1112、10-177 定家八 1056

(185:を4) をきて見は袖のみぬれていとゝしく草葉の玉のかすやまさらん(新古今/実方)

[本文注記] 第四句「玉」の右に「イ露」あり。
1-8 新古今 1183、10-177 定家八 1064、▽ [いたづらに] 3-67 実方 140

(186:を5) おもひしる人あり明の世なりせはつきせず身をは恨さらまし (同/西行)

3-125 山家 652、3-126 西行家 349、5-173 宮河合 70、10-177 定家八 870、▽ [つきせぬ身をば] 1-8 新古今 1148、▽ [つきせず物は] [おもはざらまし] 5-386 西行文 176

(187:を6) おもへともいわての山に年をへてくちやはてなん谷のむもれ木(千載/左京大夫顕輔)

1-7 千載 651、10-178 八代秀 65、4-30 久安百 360、5-223 時代不 108、10-177 定家八 885、10-181 歌枕名 6969

(188:を7) 音なしの河とそついになかれけるいはて物思ふ人の涙は(一/もと輔)

1-3 拾遺集 750、1-3' 拾遺抄 308、10-181 歌枕名 8442、▽ [流れいづる] 10-177 定家八 943、▽ [たきとぞつひに] [なりにける] 5-267 三十六 112、▽ [たきとぞつひに] [なりぬべき] 10-180 五代枕 1433

(189:を8) 思ひ出てもしもたつぬる人あらはありとないひそさためなき世に(新古今/行尊)

1-8 新古今 1833

(190:を9) おもひねの夢なかりせは別にしむかしの人をまた見ましやは

▽ [うたたねの] 4-26 堀河百 1541、▽ [うたたねの] [またもみましや] 1-5 金葉二 553、3-105 六条修 277

(191:を10) おも影のかすめる月そやとりける春やむかしの袖の涙に(新古今/俊成)

1-8 新古今 1136、4-19 俊成女 202、5-194 水無瀬 2、5-195 若宮建 1、5-196 桜宮合 1、5-277 定十体 210、5-278 自讃歌 72、5-329 桐火桶 216、6-31 題林愚 7249、10-123 新三撰 213、10-124 女房合 22

(192:を11) おしむとも涙に月は心からなれぬる袖に秋をうらみて(同/俊成イ女イ「慈圓」墨消)

5-278 自讃歌 75、5-329 桐火桶 217、10-123 新三撰 214、▽ [涙に月も] 1-8 新古今 1764、5-277 定十体 11、▽ [涙に風も] 4-19 俊成女 200

(193:を12) 思ひつゝぬれはや人のみえつらん夢としりせはさめさらましを(古今/小町)

1-1 古今 552、2-3 新撰和 300、2-4 古六帖 2029、3-5 小町 16、5-264 和十種、5-266 三十人、5-267 三十六 63、5-291 俊頼髓 188、5-294 奥儀 130、5-301 古来風 275、5-329 桐火桶 209、5-332 悦目抄 33、5-383 十訓 72、5-415 伊勢語 231、5-444 無名草 80、10-177 定家八 1214

(194:を13) おろかなる涙そ袖に玉はなす我はせきあえず瀧つせなれば(古今/同)

1-1 古今 557、2-4 古六帖 2091、3-5 小町 40、5-311 八雲 33、5-332 悦目抄 72、10-177 定家八 1328、10-196 色葉和 498、10-212 源氏注 1906

(195:を14) 倂のかわらてとしのつもれかしたとへいのちはかきりありとも(一/小町) 未詳

(196:を15) おもほえず袖にみなとのさわかなもろこし舟のよりしはかりに(伊勢物かたり/業平)

1-8 新古今 1358、5-343 正徹語 104、5-415 伊勢語 58、10-177 定家八 1185、▽ [もろこし舟も] 10-206 歌林良 110、▽ [もろこし舟も] [よせつばかりに] 5-300 六陳状 47、▽ [あやしくも] [もろこしぶねも] [よせつばかりに] 5-291 俊頼髓 338

(197:を 16) 老らくの月日はいと、はや瀬河かへらぬ波にぬる、袖かな (新古今/覚弁)

1-8 新古今 1776、10-177 定家八 1521

(198:を 17) おもふ事 いわてそた、に やみなまし 我と人しき 人しなれば (伊勢物語/業平) ▽ [やみぬべき] 1-9 新勅撰 1124、5-320 竹園抄 34、5-415 伊勢語 208、10-212 源氏注 971、▽ [いはでただにや] [やみぬべし] 10-210 古今注 400

(199:を 18) おのか身のをのかこ、ろにかなはぬを 思わはものをおもひしれかし (一/和泉式部)

10-177 定家八 1561、▽ [おもひしりなん] 2-9 後葉 559、3-73 和泉集 679、▽ [おもはばものは] [おもひしりなん] 1-6 詞花 310

(200:を 19) をもひ出よ たかかね事の末ならん きのふの雲のあとの山かせ (壬二抄/家隆) 1-8 新古今 1294、3-132 壬二 583、4-20 隆祐 320、5-197 千五百 2469、5-217 家隆合 165、5-273 続歌仙 39、5-277 定十体 271、5-278 自讃歌 116、5-307 近代秀 99、5-328 三五記 171、5-329 桐火桶 191、5-345 心敬私 174、6-27 六華集 1100、10-123 新三撰 263、10-177 定家八 1356

(201:を 20) 大空は 恋しき人の かた見かは物をもふ毎になかめらるらん (古今/人さね)

1-1 古今 743、2-4 古六帖 255

(202:を 21) おし返し物をおもへはくるしきにしらすかほにて世をや過まし (新古今/後京極)

▽ [物をおもふは] 1-8 新古今 1767、3-130 月清 897、5-197 千五百 2914

(203:を 22) をさ、ふくしつのもろやのかり

の戸を明かたになくほと、きすかな

1-8 新古今 219、6-31 題林愚 2165、▽ [しづがしのやの] 3-122 林下 72、▽ [しづがまる屋の] [まきの戸を] 5-277 定十体 207

(204:を 23) おのつからす、しくもあるか 夏衣日もゆふたちの雨の名残に (新古今/清輔) [本文注記] 第四句「日もゆふ暮の」の「暮」見せ消す、右傍書「たち」あり。

2-16 夫木 3565、3-115 清輔 85、4-30 久安百 930、▽ [ひもゆふぐれの] 1-8 新古今 264、5-308 詠歌大 21、10-177 定家八 255

(205:を 24) をしなへて峯もたいらになりな、ん 山のはなくは月もいらしを (伊勢物語/有常)

5-415 伊勢語 150、▽ [月もかくれじ] 1-2 後撰 1249、▽ [成りにけん] [月もかくれじ] 6-27 六華集 727、▽ [おほかたは] [山のあればぞ] [月もかくるる] 2-4 古六帖 344

(206:を 25) 女郎花 おほかる野辺に やとりせはあやなくあたの名をやた、まし (古今/小野よしき)

▽ [名をやたちなむ] 1-1 古今 229、2-3 新撰和 72、2-4 古六帖 3663、6-12 別兼作 405、10-212 源氏注 1911、▽ [なをやたつべき] 2-6 和漢朗 280、5-385 撰集抄 83、▽ [名をやたてなん] 6-16 和漢兼 580、▽ [にほへるのべに] [なをやたてなむ] 2-2 新撰万 93、▽ [匂へる野辺に] [名をやたちなん] 5-4 寛平后 88

(207:を 26) おのか波におなし末葉そしほれぬる 藤さく田子のうらめしの身や

3-131 拾玉 5741、10-181 歌枕名 7530、1-8 新古今 1482、▽ [うらめしの世や] 5-184 老若合 83

(208:を 27) をしなへて物をおもはぬ 人にたにこ、ろをつくる秋のはつかせ (山家抄/西行)

▽ [人にさへ] 1-8 新古今 299、3-126 西行家 167、5-173 宮河合 51、5-386 西行文 25、5-387 西行阿 21、6-6 御裳集 289、10-177 定家八 285、▽ [人にさへ] [心をつくす] 2-13 玄玉 396

(209:を28) 女郎花 うしと見つゝそ行過る
男やまにしたてりとおもへは(古今/いまみち)
2751-1 古今 227、2-4 古六帖 3686、10-181 歌
枕名 963、▽ [うしろめたくも] [みゆるかな]
5-333 和歌無 47、▽ [うしろめたくも] [見ゆ
るかな] [立てると思はば] 10-211 伊勢注 284、
▽ [うしろめたくも] [みゆるかな] [あだの大
野に] [たてると思はば] 5-248 和一字 79

(210:を29) おほ方に 花のすかたを見ましか
は 露もこゝろのおかれまじやは(源し/藤つ
ほ女御)
5-421 源氏 101

(211:を30) をく山に 紅葉ふみはけなく鹿の
聲きく時そ秋はかなしき(古今/猿丸大夫)
1-1 古今 215、2-2 新撰万 113、5-4 寛平后 82、
5-166 俊成合 33、5-275 百人秀 8、5-276 百人首 5、
5-301 古来風 246、5-307 近代秀 47、5-308 詠
歌大 46、5-329 桐火桶 89、5-363 盛衰記 255、
10-177 定家八 422、▽ [おくやまの] 5-267
三十六 61、▽ [あきやまの] [物はかなしき]
3-4 猿丸 39

(212:わ1) 別にし 去年のその日のまゝなれ
は わすられはこそおもひ出さめや
未詳

(213:わ2) 我か恋は あふをかきりのたのみ
たに行ゑもしらぬ空のうき雲(新古今/—)
1-8 新古今 1135、5-197 千五百 2411、5-235 新
時代 84、10-177 定家八 1014

(214:わ3) 忘るなよ 世々の契りをすか原や
ふしみの里のあり明のそら(千載/俊成)
1-7 千載 839、3-129 長秋 520、10-177 定家八
1051、10-179 正風体 25、10-181 歌枕名 3313

(215:わ4) 別ても 影たにとまる物ならばかゝ
みを見てもなくさみてまし(源し/紫の上)
▽ [なくさめてまし] 5-250 風葉 528、5-421
源氏 173、▽ [別るとも] [慰みなまし] 5-444
無名草 12

(216:わ5) わすれては うちなけかるゝ夕へ
哉 我のみしりて 過る月日を(新古今/式子内

親王)
1-8 新古今 1035、4-1 式子 320、5-277 定十体
26、5-278 自讃歌 17、5-327 愚秘抄 10、5-329
桐火桶 214、6-31 題林愚 6231、10-123 新三撰
76、10-177 定家八 866

(217:わ6) 別ちや 事をたれかは 初めけん く
るしき物と しらすもある哉
▽ [別てふ] [事は誰かは] [しらすやありけん]
1-3 拾遺集 307、1-3' 拾遺抄 202

(218:わ7) はけてこし 野辺の露とも さいす
して おもはぬ里の 月をみるかな
5-361 平家覚 73、▽ [わきてこし] 2-12 月詣
796

(219:わ8) わひぬれは 身をうき草のねをた
へて さそふ水あらは いなんとそおもふ(古今
/小町)
1-1 古今 938、2-3 新撰和 247、2-4 古六帖
3836、3-5 小町 38、5-306 西行談 24、5-329
桐火桶 208、5-332 悦目抄 98、5-383 十訓 33、
5-384 著聞 140、5-444 無名草 79、10-124 女房
合 2、10-177 定家八 1543、10-206 歌林良 84、
10-211 伊勢注 157、10-212 源氏注 409、▽ [さ
そふ浪あらば] 10-211 伊勢注 101、▽ [いなむ
とおもひけるかな] 10-210 古今注 731

(220:わ9) わか恋は くつのうら葉のきり
へす うら見てもなく 恨みてそなく
未詳

(221:わ10) 我袖を 秋の草葉に くらへはや
いつれか露のおきはまさると(—/さかみ)
1-4 後拾遺 795、10-177 定家八 1281、▽ [わ
が袖に] [秋の草ばを] 7-33 相模 5

(222:わ11) 我か恋は ほそたに川のまる木橋
ふみかへされてぬるゝ袖かな(—/平通盛)
5-363 盛衰記 195、▽ [まる木ばし] 5-361 平
家覚 78、5-362 平家延 194

(223:わ12) 和哥の浦にしほみちくれは かた
をなみ あし辺をさして たつなきわたる(古今
/赤人)
1-11 続古今 1634、2-1 万葉 924、2-4 古六帖

4353、2-5 金玉 48、2-16 夫木 12580、3-2 赤人 115、3-2 赤人 352、5-52 前十五 30、5-166 俊成合 18、5-223 時代不 11、5-251 秘蔵抄 151、5-264 和十種 2、5-265 和十体 2、5-267 三十六 46、5-294 奥儀 106、5-299 袖中抄 675、5-300 六陳状 174、5-301 古来風 66、5-329 桐火桶 138、5-335 井蛙 362、10-180 五代枕 1055、10-196 色葉和 496、▽ [あしはをさして] 10-181 歌枕名 8300、▽ [しほみちくらし] 2-6 和漢朗 451、▽ [あしべをわけて] 5-268 深窓秘 77、▽ [難波濁] 5-291 俊頼髓 105

(224：わ 13) 我袖に またき時雨の ふりぬるは 君かこゝろに 秋や来ぬらん (古今／—)
1-1 古今 763、10-206 歌林良 365

(225：わ 14) 忘草 たねとらましを あふ事の いかくかたき 物としりせは (古今／—)
1-1 古今 765、5-299 袖中抄 666

(226：わ 15) わすれ草 何をかたねと 思ひしに つれなき人の こゝろなるらん (古今／そせい)
[本文注記] 第三句「思ひしに」の「に」の右に「イ は」あり。
▽ [思ひしは] [心なりけり] 1-1 古今 802、3-9 素性 29、10-177 定家八 1395、▽ [思ひしを] [心なりけり] 2-3 新撰和 304、▽ [たづぬれば] [こころなりけり] 5-299 袖中抄 664

(227：わ 16) 我恋を 人しるらめやしきたえの 枕のみこそしらはしるらめ (古今／—)
1-1 古今 504、2-4 古六帖 3230、5-319 和歌口 139、10-177 定家八 1026、▽ [わがこひは] [まくらばかりぞ] [しらばしるらん] 2-3 新撰和 244

(228：わ 17) わたつ海の 我身こす波 たち帰り あまのすむてふうらみつる哉 (古今／—)
1-1 古今 816

(229：わ 18) 忘しよ わするなとたに いひてまし 雲いの月の こゝろありせは (新古今／俊成)
[本文注記] 第四句「雲の月」の「雲」と「の」の間に挿入記号、右に「い」あり。
1-8 新古今 1509、3-129 長秋 365、5-278 自讃 歌 62、10-177 定家八 1611

(230：わ 19) わたつ海の ふかきにしつむいさりせて たもつかいある 法をもとめよ (新古今／寂蓮法し)

1-8 新古今 1961、10-177 定家八 1797、▽ [あさりせで] 7-59 唯心房 1

(231：わ 20) 我のみや 世を鶯と なきはひん人のこゝろの 花とちりなは (古今／—)
1-1 古今 798、3-5 小町 92

(232：わ 21) わひはつる 時さへ物の かなしきはいつこをしのふ 涙なるらん
1-1 古今 813、10-177 定家八 1422、▽ [くるしきは] 3—15 伊勢集 126、▽ [心なるらん] 1-2 後撰 936、▽ [いづれをしのぶ] [心なるらん] 2-3 新撰和 328

(233：わ 22) われを思ふ 人を思わぬ むくりにや 我かをもふ人の われにつれなき (古今／—)
▽ [我をおもはぬ] 1-1 古今 1041、2-4 古六帖 2133、5-269 九品和 12、5-294 奥儀 98、5-302 歌色葉 68、6-31 題林愚 10101、10-212 源氏注 458

(234：わ 23) 別にしけふはくれとも なき人の 行あふほとをいつとたのまん
▽ [見し人に] 5-421 源氏 158

(235：わ 24) わか袖に やとると人にかたるな よしりなは君は 月もなかめし
未詳

(236：わ 25) わすれしよ 月もあわれと おもひ出よ 我が身の後の 行末のあき (拾遺愚抄／定家)
3-133 拾遺愚 692

(237：わ 26) わするなよ ほとは雲井になりぬとも 空ゆく月の めくりあふまで (伊勢物語／—)
1-3 拾遺集 470、1-3' 拾遺抄 528、5-277 定十体 155、5-301 古来風 372、5-304 瑩玉集 20、5-328 三五記 93、5-415 伊勢語 16、7-2 業平 111、10-177 定家八 732

(238：わ 27) 忘るなよ やとる袂は かわるとも かつみにしほる 夜半の月影 (新古今／定家)

1-8 新古今 891、3-133 拾遺愚 193、▽ [袖の月
かけ] 5-216 定家合 169

(239: わ 28) 我かことく われをたつねは 海士
小舟 人もなきさのあと、こたえよ (同/行尊)
1-8 新古今 917、3-107 行尊 10

(240: わ 29) 忘れしと 契りて出し おも影は
見ゆらん物を ふるさとの月 (同/後京極)
1-8 新古今 941、3-130 月清 1480、5-277 定十
体 225、5-278 自讃歌 26、5-329 桐火桶 189

(241: わ 30) 我ならぬ 人にこゝろをつくは山
したにかよはん 道たにやなき (新古今一)
1-8 新古今 1014、3-33 能宣 61、5-166 俊成合
99、5-223 時代不 215、7-14 能宣 174、10-181
歌枕名 5593

(242: か 1) かきすつる 壺のもしほの 草枕 心
そとまる 和哥のうら風 (長秋抄/俊成)
2-16 夫木 15373、7-67 長秋草 105、10-6 俊五
社 493

(243: か 2) かつみつゝ 猶すてはてぬ 身なり
けり いつかはかきり あすや後の世 (拾遺愚抄
/定家)
3-133 拾遺愚 498

(244: か 3) 語るへき 友もなければ おもふ事
なきにそにたる すまひ成けり
▽ [人しとはねば] [なきにもにたる] [すみか
なりけり] 8-10 草根 8653

(245: か 4) 風ふけは 波うつきしの 松なれや
ねにあらはれて なきぬへらなり (古今/人丸)
1-1 古今 671、5-297 万葉時 32、10-177 定家八
982、▽ [なみたつきしの] 3-1 人丸 185、▽ [な
みこすいその] [そなれまつ] 2-4 古六帖 4113

(246: か 5) 帰りつる 名残のそらを なかむれ
はなくさめかたき あり明の月 (千載/後法性
寺入道)
1-7 千載 838、10-177 定家八 1050

(247: か 6) かそふれは 空のほしたに ある物
を なにをつらさの 数にをかまし

▽ [そらなるほしも] [しるものを] 1-4 後拾
遺 797、5-295 袋草紙 657、▽ [空なるほしも] [し
るものを] [かずにとらまし] 5-311 八雲 90、
▽ [そらなるほしも] [なにならず] [かずにと
らまし] 3-69 長能 34

(248: か 7) 数ならぬ 身程の山の をくはなし
人のとはぬを かくれ家にして
未詳

(249: か 8) かきりなく つらき嵐の 聲もうし
なとゆふ暮を まちならひけん
▽ [あぢきなく] 10-123 新三撰 198、▽ [あ
ぢきなく] [などゆふぐれに] 1-8 新古今 1196、
3-133 拾遺愚 168、5-216 定家合 129、5-248 和
一字 1164、5-273 続歌仙 14、5-278 自讃歌 96、
10-177 定家八 1082

(250: か 9) かきりあれば 吹ねと花は ちる物
を 心みしかき 春の山風
未詳

(251: か 10) かはりぬる 契りなれとも おもひ
ねの 夢見し夜るの おなし佛
10-87 三十番 56

(252: か 11) かりそめに見しおもかけの 忘れ
られて 袖の時雨と ふる涙かな
未詳

(253: か 12) かきりあれば うすすみ衣 あさけ
れと 涙そ袖を ふちとなしける
5-250 風葉 670、5-421 源氏 119、5-444 無名草 8

(254: か 13) かきりとて 別るゝ道の かなしき
にかまほしきは 命なりけり (源じ/源し母)
5-249 物語合 87、5-250 風葉 652、5-421 源氏 1

(255: か 14) 風のうへに ありかさためぬ ちり
の身は 行ゑもしらす なりぬへらなり (古今一)
1-1 古今 989、2-3 新撰和 355、2-4 古六帖 798、
10-212 源氏注 1150

(256: か 15) かきつめて 壺のたくもの 思ひに
も 今のかひなき 恨みたにせし
5-421 源氏 234、10-102 源氏合 86

(257：か16) かけひろみ たのみし松や かれに
けん下葉ちり行 としの暮かな
5-421 源氏 143

(258：か17) かきつらね むかしの事におもほ
ゆる 鳥はその世の 友ならねとも (源し/吉清)
▽ [昔のことぞ] 5-421 源氏 201

(259：か18) から衣 きつゝなれにしつましあ
れは はるへ きぬる 旅をしそおもふ (古今に
も伊勢物語/業平)
1-1 古今 410、2-3 新撰和 198、2-4 古六帖
3806、3-6 業平 80、5-293 童蒙 857、5-311 八
雲 25、5-374 今昔 82、5-415 伊勢語 10、7-2 業
平 23、10-177 定家八 794、10-181 歌枕名 4970

(260：か19) 風ふけは おきつしら波 龍田山
夜半にや君か ひとり行らん (伊勢物語/古今
にも有常むすめ)
2-3 新撰和 259、2-4 古六帖 436、2-4 古六帖
857、5-251 秘蔵抄 3、5-291 俊頼髓 96、5-294
奥儀 84、5-300 六陳状 135、5-302 歌色葉 60、
5-313 簸河上 6、5-383 十訓 139、10-181 歌枕
名 2411、▽ [ひとりこゆらむ] 1-1 古今 994、
2-5 金玉 75、5-285 新髓脳 1、5-299 袖中抄 25、
5-332 悦目抄 1、5-332 悦目抄 34、5-415 伊勢
語 49、5-416 大和 251、10-180 五代枕 175、
10-196 色葉和 241、▽ [おちつしらなみ] [ひ
ひとりこゆらん] 5-264 和十種 3

(261：か20) 春日野の わかむらさきの すり衣
もしのふのみたれ かきりしられす (伊勢物語
/業平)
1-8 新古今 994、2-4 古六帖 3309、3-6 業平 77、
5-299 袖中抄 208、5-299 袖中抄 917、5-300 六
陳状 133、5-415 伊勢語 1、7-2 業平 60、10-
177 定家八 851、10-181 歌枕名 1776、10-206
歌林良 602、10-212 源氏注 1383、10-212 源氏
注 1483、10-212 源氏注 1501、▽ [むさしのの]
10-212 源氏注 9

(262：か21) から衣 袖に人めは つゝめとも
こほるゝものは 涙なりけり (—/謙徳公)
1-8 新古今 1003、3-50 一条撰 4、10-177 定家
八 976、▽ [もりいづる物は] 5-307 近代秀 79

(263：か22) かくとたにおもふこゝろをいわ
せ山 下行水の 草かくれつゝ
1-8 新古今 1088、10-181 歌枕名 2560

(264：か23) 風ふけは むろのやしまの 夕けふ
りこゝろの空に たちけるかな (—/藤原惟成)
1-8 新古今 1010、5-235 新時代 189、6-12 別
兼作 454、10-177 定家八 926、10-181 歌枕名
6816、▽ [なりにけるかな] 10-183 高良玉
239、▽ [心のうちに] 5-299 袖中抄 895、7-16
惟成弁 18

(265：か24) 方岡の 雪まにねさす わか草の
ほのかにみてし 人そ恋しき
1-8 新古今 1022、▽ 2-9 後葉 299 [雪まをねさす]
[はつかに見えし]、▽ 3-58 好忠 22 [ゆきまに
きざす] [はつかに見えし]

(266：か25) 数ならぬ こゝろのとかになしは
てゝ しらせてこそは 身をもうらみめ (新古今
/西行)
3-126 西行家 318、5-386 西行文 175、▽ [な
しはてじ] 1-8 新古今 1100、3-125 山家 653、
5-172 御裳濯 47

(267：か26) かきりあれは しのふの山の ふも
とにも おち葉かうへの 露そいろつく (新古今
/通光)
1-8 新古今 1095、5-278 自讃歌 47、10-181 歌枕
名 6930、▽ [露もいろづく] 10-123 新三撰 117

(268：か27) かけておもふ 人もなけれと 夕暮
はおもかけたえぬ 玉かつらかな
▽ [ゆふされば] 1-8 新古今 1219、2-4 古六帖
3877、3-19 貫之 543

(269：か28) かりそめに ふしみの野辺の くさ
まくら 露かゝりきと 人にかたるな (新古今/—)
[本文注記] 第二句「野辺」の右に「里に」あり。
2-10 続詞花 593、10-181 歌枕名 1104、▽ [つ
ゆけかりきと] 1-8 新古今 1165

(270：か29) かくはかり ねて明しつる 春の夜
にいかに見えつる 夢にかあるらん (同/能宣)
1-8 新古今 1385、▽ [はるのよを] [いかでみ

えつる] 3-33 能宣 420、▽ [はるのよを] [いかでありにし] 7-14 能宣 272

(271: か 30) かささきのわたせる橋にをく霜のしろきを見れば夜そふけにける (百人一首 / 家持)

1-8 新古今 620、5-166 俊成合 14、5-223 時代不 17、5-274 秀歌大 85、5-275 百人秀 5、5-276 百人首 6、10-177 定家八 518、▽ [よぞふけにけり] 6-12 別兼作 7、▽ [よはふけにけり] 3-3 家持 268

(272: よ 1) 世中のうきもつらきもつけなくにまつしる物は涙なりけり (古今一)

1-1 古今 941、2-3 新撰和 237、3-5 小町 94、10-177 定家八 1546

(273: よ 2) 世中は夢かうつゝかうつゝとも夢ともしらすありてなければ (同一)

1-1 古今 942、2-5 金玉 70、3-5 小町 109、10-177 定家八 1546

(274: よ 3) 世をすてゝ山にいる人山にても猶うき時はいつちゆくらん (同 / みつね)

1-1 古今 956、6-27 六華集 1747、▽ [やまながら] [まだうきときは] 7-5 躬恒 300、▽ [よをうしと] [やまながら] [またうきときは] 3-12 躬恒 53

(275: よ 4) 世中の人のこゝろは花そめのうつろひやすき物にそありける (古今一)

2-4 古六帖 3480、▽ [色にぞありける] 1-1 古今 795、▽ [つきくさの] [色にぞ有りける] 2-4 古六帖 3844

(276: よ 5) よの中のかきりもつらし鳥の音をかきりとたれか別初けん

未詳

(277: よ 6) 世中のうさには神もなき物を何いのるらんこゝろつくしに

5-361 平家覚 69、▽ [心づくしに] [なに祈るらん]、5-362 平家延 172、5-363 盛衰記 170

(278: よ 7) よしやたゝ君こそわれにつらくともうき名はたてし身のとかにして

未詳

(279: よ 8) よりそわぬ中や鳥ゐの二はしらたちならひつゝ年はふれとも

未詳

(280: よ 9) 世中のさためなきこそたのみなれもしうき事のかわりもやせん

未詳

(281: よ 10) 世中はかゝれとてこそむまれけめことはりしらぬわか涙かな

▽ [うき世には] 5-235 新時代 48、5-365 承久古 19、1-11 続古今 1845、2-15 万代 3669、5-358 増鏡 25、7-77 土御門 109

(282: よ 11) よし野河岩きりとをし行水の音にはたてし恋はしぬとも (古今一)

1-1 古今 492、3-3 家持 297、5-294 奥儀 189、5-294 奥儀 496、10-180 五代枕 1189、10-181 歌枕名 2141、10-196 色葉和 35、▽ [みよしの] 2-4 古六帖 1003

(283: よ 12) 吉野河岩波たかくゆく水のはやくそ人をおもひ初てし (古今 / つら之)

1-1 古今 471、2-3 新撰和 208、2-4 古六帖 2558、3-19 貫之 550、5-166 俊成合 6、5-223 時代不 107、5-291 俊頼髓 104、5-301 古来風 271、5-314 詠歌一 48、5-345 心敬私 97、6-4 如意宝 28、10-177 定家八 837、10-180 五代枕 1188、10-181 歌枕名 2140、▽ [岩きりとほし] 10-205 冷口伝 7、▽ [岩きりとほし] [思ひ初めてき] 5-328 三五記 228

(284: よ 13) よるへなみ身こそ遠くへたてつれ心は君かかけとなりき

▽ [身をこそとほく] 1-1 古今 619、10-177 定家八 1127、10-206 歌林良 335、▽ [身をこそとほく] [へだつれど] 7-2 業平 105

(285: よ 14) 世中はとてもかくてもおなし事宮もはしやもはてしなければ (新古今 / 蟬丸) [本文注記] 第三句「おなし事」の右に「ありぬへし」あり。

▽ [みやもわらやも] 1-8 新古今 1851、2-6 和漢朗 764、10-177 定家八 1526、▽ [ありぬべし]

[みやもわら屋も] 5-223 時代不 149、5-291 俊頼髓 85、5-362 平家延 230、5-363 盛衰記 233、5-363 盛衰記 267、5-375 古本説 52、▽ [すぐしてむ] [みやもわらやも] 5-293 童蒙 371、5-373 江談 7、▽ [すぐしてむ] [みやもわらやも] 5-374 今昔 62

(286:よ 15) 世中の うきは今こそ うれしけれをもひしらすは いとはましやは (千載/寂蓮法師)

1-7 千載 1146、4-10 寂蓮 87、4-10 寂蓮 280、5-376 宝物 510、2-12 月詣 851、▽ [いとほざらまし] 5-167 別雷合 156、▽ [心しらずは] 10-177 定家八 1559

(287:よ 16) 世かたりに 人やつたえん たくいなく うき身をさめぬ 夢になしても (源し/藤つほ)

[本文注記] 結句「に」の右に「いと」あり。
5-249 物語合 243、5-250 風葉 871、5-343 正徹語 110、5-421 源氏 61

(288:よ 17) よしさらは このまゝにても 遠さかれ あはは別の またやうからん
未詳

(289:よ 18) 吉野山 さくらか枝に 雪ちりて 花をそけなる 年にもあるかな (山家抄/西行)
1-8 新古今 79、3-126 西行家 38、5-278 自讃歌 161、6-6 御裳集 85、10-181 歌枕名 2010、▽ [はるにもあるかな] 5-386 西行文 41

(290:よ 19) よそにのみ 見てやゝみなん かつらきの たかまの山の 峯のしら雲 (新古今/—)
2-6 和漢朗 409、10-201 和歌灌 2、10-210 古今注 110、▽ [かづらきや] 1-8 新古今 990、5-268 深窓秘 68、5-274 秀歌大 99、5-277 定十体 73、5-291 俊頼髓 108、5-303 無名抄 61、5-304 瑩玉集 6、5-328 三五記 20、10-177 定家八 1013、10-181 歌枕名 2340、▽ [峰の楠] 五卷 367 太平記 37

(291:よ 20) よしさらは のちの世とたに たのめおかん つらさにたえぬ 中もこそあれ (同/俊成)

[本文注記] 第三句「おかん」の右に「けい」あり。

結句「中もこそあれ」の左に「身ともこそなれ」あり。

▽ [たのめおけ] [身ともこそなれ] 1-8 新古今 1232、3-129 長秋 320、5-271 歌仙落 28、5-319 和歌口 13、10-177 定家八 1158

(292:よ 21) 世のうきも 人のつらきも しのふるに 恋しきにこそ おもひわひぬれ (同/元真)
1-8 新古今 1424、3-28 元真 233

(293:よ 22) よし野山 花やさかりに にほふらん ふる里しらぬ 峯のしら雲 (新古今/—)
▽ [ふる郷さらぬ] 10-181 歌枕名 2172、▽ [古郷さえぬ] [峰のしら雪] 1-8 新古今 92

(294:よ 23) 吉の山 はなのふるさと あとたえてむなしき枝に 春風そふく (新古今/後京極)
1-8 新古今 147、3-130 月清 314、5-175 六百番 179、5-178 後京極 31、5-183 三百六 139、6-31 題林愚 1525、10-56 三相撲 12、10-177 定家八 176、10-181 歌枕名 2174

(295:よ 24) よしの河 きしの山吹 さきにけり 峯のさくらは 散はてぬ覧 (同/家隆)

[本文注記] 結句「覧」は「めり」の墨消。
1-8 新古今 158、3-132 壬二 417、5-217 家隆合 31、5-273 続歌仙 34、5-314 詠歌一 24、5-328 三五記 204、10-177 定家八 181、10-181 歌枕名 2120、▽ [嶺の桜や] 4-31 正治初 1420

(296:よ 25) 横雲の 風に別るゝ しのゝめに 山とひこゆる はつかりの 聲 (新古今/経信)

1-8 新古今 501、3-125 山家 420、3-126 西行家 252、6-6 御裳集 367、10-177 定家八 374、▽ [かげにわかるる] 5-386 西行文 116

(297:よ 26) 夜もすから むかしのことを 見つる哉 かたるやうつゝ ありしよや夢 (新古今/—)
1-8 新古今 824、2-10 続詞花 832、5-376 宝物 104、▽ [ありしよの夢] 6-12 別兼作 300

(298:よ 27) 世中は 見しもきゝ しも はかなくてむなしき空の けふりなりけり (同/—)

3-115 清輔 340、10-177 定家八 718、▽ [むなしき空は] 1-8 新古今 830、▽ [かすみなりけり] 5-272 中古六 111

(299:よ28)よもきふにいつかをくへき露の
身はけふのゆふ暮春の明ほの(同/慈圓)

▽[あすのあけぼの]1-8新古今834、3-131
拾玉679、5-177慈鎮合121、10-177定家八
722

(300:よ29)世中よみちこそなけれおもひ入
山のをくにも鹿そなくなる(長秋抄千載にも
/俊成)

1-7千載1151、3-129長秋146、5-223時代不
30、5-275百人秀87、5-276百人首83、5-307
近代秀20、5-307近代秀110、5-314詠歌
一39、5-328三五記215、5-329桐火桶173、
5-335井蛙26、6-31題林愚3662、10-177定家
八1708、10-178八代秀70、10-179正風体38

(301:よ30)よの中はうきふししけししのは
らや旅にしあらはいも夢に見ゆ(同/同)

▽[たびにしあれば]1-8新古今976、3-129
長秋178、10-181歌枕名6361、10-181歌枕名
7447、▽[うきふししげき][旅にしあれば]
10-177定家八822

(302:た1)たねとりてうへしうへなはむさ
しのもせまくやあらんわかをもひ草
未詳

(303:た2)たゝたのめたとへは人のいつわ
りをかさねてこそは又もうらみめ(新古今/
慈圓母)

1-8新古今1223、3-131拾玉1622、5-175六百
番682、5-177慈鎮合144、5-329桐火桶181、
5-346兼載談100、6-31題林愚6560、10-123
新三撰166

(304:た3)たよりある風もや吹と松嶋にか
けてひさしき漣のすて舟

▽[よせて久しき][あまのはし舟]1-14玉葉
1251、3-68清少22、▽[風もふくやと][よ
せて久しき][あまのはし舟]10-124女房合79

(305:た4)たのめをかむたゝさはかりを契り
にてうき世中の夢になしてや(新古今/定家)

▽[夢になしてよ]1-8新古今1233、3-129長
秋321、5-319和歌口14、10-177定家八1159

(306:た5)玉のをよたえなはたえねなから
へはしのふる事のよほりもそする(新古今/
式子内親王)

1-8新古今1034、4-1式子319、5-275百人秀
92、5-276百人首89、5-277定十体86、5-278
自讃歌18、10-123新三撰75、10-177定家八
977、10-206歌林良398

(307:た6)只たのめほそ谷河のまる木橋ふ
みかへしてはおちさらめやは(一/女院)

▽[まろ木橋]5-361平家覚79、▽[まろきば
し][落ちざらむやは]5-362平家延196、▽[落
つる習ぞ]5-363盛衰記197

(308:た7)たちぬへきうき名をかねて思わ
ずは風にけふりのなひかさらめや

5-367太平記74

(309:た8)誰とても残るへきにはあらねと
もさきたつ人そあわれなりける

未詳

(310:た9)たか世にかたねをまきしと人と
は、いかゝ岩ねの姿はこたえん(源じ/源じ)

▽[種は蒔きしと]5-363盛衰記271、5-421
源氏504

(311:た10)たえへに里わく月のひかりか
な時雨をおくる夜半のむら雲

5-184老若合329、▽[時雨をかくる]1-8新古
今599

(312:た11)尋ね来て道分わふる人もあらし
いく重もつもれ庭のしら雪

1-8新古今682、2-13玄玉309、3-123唯心房
129、5-277定十体173、7-60寂然66、▽[人
はあらじ]5-165治承合134、▽[道分け侘びん]
[人もなし]5-271歌仙落98

(313:た12)高きやにのほりて見ればけふり
たつ民のかまとはにきわひにけり(新古今/
仁徳天王)

1-8新古今707、2-6和漢朗693、5-297万葉時
15、5-301古来風5、5-321代集5、5-333和歌
無36、5-357水鏡1、5-362平家延13、5-363

盛衰記 27、10-177 定家八 581、10-210 古今注 591、10-212 源氏注 1066、10-212 源氏注 1392、▽ [民のかまども] 5-291 俊頼髓 56

(314: た 13) たれもみな 花のみやこに ちりはて、ひとりしくる、秋の山さと (新古今/顕輔) 1-8 新古今 764、▽ [はなのみやこへ] 3-111 顕輔 41

(315: た 14) たちのほる けふりをたにも みるへきに 霞にさかふ はるのあけほの
▽ [霞にまがふ] 1-8 新古今 767、5-165 治承合 56、5-183 三百六 32、7-57 粟田口 233

(316: た 15) たつねても あとはかくても 水くきの ゆくゑもしらぬ むかし成けり (新古今/馬内侍) 1-8 新古今 806、▽ [かくてもあとは] [むかしなになり] 3-30 斎女御 49

(317: た 16) たれか世になからへてみん かきとめし あとはたえせぬ かた見なれ共 (新古今/紫式部) 1-8 新古今 817、3-72 紫集 125

(318: た 17) 尋ね来て いかにあわれと なかむらんあとなき山のみねのしら雲 (同/寂蓮法し) 1-8 新古今 836、4-10 寂蓮 84、4-10 寂蓮 340、7-55 頼輔 100

(319: た 18) 誰としも しらぬ別の かなしきはまつらの沖のいつる舟人 (同/隆信) 1-8 新古今 883、4-11 隆信 895、4-41 御五十 449、10-181 歌枕名 9124、10-210 古今注 532、▽ [まつらがおきを] 5-223 時代不 220

(320: た 19) たのめをかむ 君もこゝろやなくさむと 帰らん事はいつとなくとも (同/西行) 1-8 新古今 886、5-277 定十体 186、5-386 西行文 192、▽ [いつとなけれど] 3-126 西行家 475、10-177 定家八 764

(321: た 20) 立なから 今夜は爰に その原やふせやといふも かひなかりけり

▽ [こよひはあけぬ] 1-8 新古今 913、7-18 輔尹 27、10-181 歌枕名 6611

(322: た 21) 旅ころも たち行波路 とをけれといさしら雲のほともしられす

▽ [とほければ] 1-8 新古今 915、▽ [立行く道の] [遠ければ] 5-295 袋草紙 243

(323: た 22) たち別 いなはの山の 峯におふるまつとしきかは 今かへりこむ (古今/行平) 1-1 古今 36、5-223 時代不 25、5-275 百人秀 9、5-276 百人首 16、5-277 定十体 154、5-296 和歌初 69、5-301 古来風 264、5-307 近代秀 63、5-308 詠歌大 72、5-329 桐火桶 141、5-335 井蛙 312、10-177 定家八 729、10-178 八代秀 5、10-180 五代枕 384、10-181 歌枕名 6535、10-181 歌枕名 7820、10-206 歌林良 142、▽ [とくかへりこん] 2-4 古六帖 1275、▽ [たちかへり] 2-3 新撰和 181

(324: た 23) たれをかもしる人にせん 高砂の松もむかしの友ならなくに (同/おきかせ) 1-1 古今 909、2-3 新撰和 205、2-4 古六帖 4111、2-6 和漢朗 740、3-10 興風 52、5-166 俊成合 80、5-235 新時代 69、5-266 三十人 78、5-267 三十六 108、5-275 百人秀 31、5-276 百人首 34、5-301 古来風 290、10-177 定家八 1694、10-181 歌枕名 8058、10-212 源氏注 140、10-212 源氏注 420

(325: た 24) 旅ねして 暁かたの 鹿の聲 いなはおしなみ 秋風そふく (新古今/経信)

▽ [鹿の音に] 1-8 新古今 920、▽ [しのびねに] [いなばのすゑに] 3-96 経信 275

(326: た 25) たちかへり 又も来て見ん 松嶋やをしまのとまや 波にあらすな (同/俊成)

1-8 新古今 933、4-41 御五十 295、5-183 三百六 601、5-223 時代不 28、5-277 定十体 236、5-278 自讃歌 70、5-307 近代秀 23、5-307 近代秀 66、5-308 詠歌大 77、5-314 詠歌一 38、5-328 三五記 163、5-328 三五記 214、5-335 井蛙 28、10-177 定家八 826、10-178 八代秀 78、10-181 歌枕名 7258

(327: た 26) 旅ねする あしのまろやの 寒けれ

はつま木こりつむ舟いそくなり(新古今/経信)
1-8 新古今 927、10-181 歌枕名 6097、▽ [ふ
ねいそぐめり] 3-96 経信 155、▽ [つま木こも
つむ] 7-39 田上 82

(328: た 27) たれとなき 宿の夕へを 契りにて
かはる嵐をいく世とふらん
▽ [かはるあるじを] 1-8 新古今 963

(329: た 28) たより来て花とはしりぬ 山桜 よ
そめは猶や 峯のしら雲 (拾玉抄/慈圓)
▽ [たどりきて] 3-131 拾玉 903

(330: た 29) たれかまた 花たち花に おもひ出
ん 我もむかしの 人となりなは (長秋抄/俊成)
1-8 新古今 238、2-12 月詣 425、2-13 玄玉 627、
3-129 長秋 226、5-183 三百六 204、5-271 歌
仙落 20、10-177 定家八 228、▽ [思ひけむ]
6-27 六華集 390、▽ [人となりせば] 5-329 桐
火桶 130

(331: た 30) たち花の はなちる里の ゆふ風に
山時鳥 こゑかほるなり (壬二抄/家隆)
3-132 壬二 218、▽ [里さそふ] [花たちばなの]
2-16 夫木 2854、▽ [まどさそふ] [花たちばなの]
4-31 正治初 632

(332: そ 1) そめおきし うき世の色を すてや
らて 猶はなおもふ みよし野の山 (月清抄/後
京極)
3-130 月清 1526

(333: そ 2) 袖のうへに たれゆえ月は やとる
そとよそになしても 人のとへかし (新古今/
秀能)
1-8 新古今 1139、5-273 続歌仙 99、5-277 定
十体 30、5-278 自讃歌 160、5-328 三五記 8、
5-328 三五記 218、5-329 桐火桶 202、6-31 題
林愚 7320、7-81 如願 610、10-123 新三撰 358、
10-177 定家八 1366

(334: そ 3) そはたつる 枕におつる 鐘の音も
紅葉をいつる 峯のやま寺 (拾遺愚抄/定家)
[本文注記] 第四句「紅葉いつる」の「葉」と「い」
との間に挿入記号、右に「を」あり。
2-16 夫木 16415、3-133 拾遺愚 1139、▽ [秋

の山寺] 6-27 六華集 1926

(335: そ 4) それをたに おもふ事とて わか宿
を見きとないひそ人のきかくに (古今/一)
1-1 古今 811、2-3 新撰和 278、5-416 大和 37、
10-177 定家八 1424、2-4 古六帖 2973、▽ [み
よとなかけそ] 10-212 源氏注 21

(336: そ 5) そま人は 宮木ひくらし あしひき
の山の山ひこよるとよむなり (同/つらゆき)
▽ [やまの山人] 2-4 古六帖 4008、▽ [よびと
よむなり] 1-1 古今 1101、1-3' 拾遺抄 487、▽ [声
とよむなり] 1-3 拾遺集 371

(337: そ 6) 袖の香は 花たち花に のこれとも
たえてつれなき 夢のをもかけ (拾遺愚抄/定家)
3-133 拾遺愚 1526、4-45 藤五百 126

(338: そ 7) 袖にちる 萩の上葉の あさ露に 涙
ならわす 秋のはつかせ (月清抄/後京極)
5-178 後京極 50、3-130 月清 52、3-131 拾玉
1756、6-11 雲葉集 388、▽ [涙ならぬは] 6-16
和漢兼 523

(339: そ 8) その色を おもひわけとや 秋風の
心つくしの月にふくらん (同/同)
4-42 仙五十 193、▽ [そのいろと] [秋のかぜ]
3-130 月清 982

(340: そ 9) 袖の露 かゝれとてやは しめし野
にすゝのしのやを はらふ秋かせ (同/同)
3-130 月清 1155

(341: そ 10) そむれとも ちらぬたもとに 時雨
来て 猶いろふかき 神無月かな (拾玉抄/慈圓)
3-131 拾玉 5793、5-223 時代不 32、6-11 雲葉
集 747、10-122 三六合 12

(342: そ 11) そなれ松 木末くたくる 雪折に
岩うちやまぬ 波のさひしさ (拾遺愚抄/定家)
2-16 夫木 7332、3-133 拾遺愚 1765、▽ [嶺う
ちやまぬ] 4-41 御五十 535

(343: そ 12) そめし秋を 暮ぬとたれか 岩田河
また波こゆる 山姫のそて (同/同)
2-16 夫木 6462、3-133 拾遺愚 2921、5-336 愚

問賢 29

(344：そ 13) 袖の上の 玉のひかりの ほどもなく
みなみの空の 月とすむらん (長秋抄 / 俊成)

3-129 長秋 463

(345：そ 14) そろひ生る 野澤のあれ田 うち返
しいそげる御代の むろのたねかも

▽ [沢のあれ田を] [いそげる代 (しろ) は]
4-26 堀河百 237、▽ [岨 (そは) におふる] [野
沢のあら田] [いそげるころは] 2-16 夫木 1871

(346：そ 15) 袖にさへ 秋のゆふへは しられけ
り きえしあさちに 露をかけつゝ

▽ [きえしあさちが] 1-8 新古今 778、3-30 斎
女御 171、5-166 俊成合 55、5-223 時代不 163、
10-124 女房合 19

(347：そ 16) 袖ぬらす おきのうは葉の 露はか
り むかしわすれぬ 虫のねそする (新古今 / 知
足院入道前関白太政大臣)

▽ 1-8 新古今 784

(348：そ 17) そこはかと おもひつゝ けて 来て
みれは ことしの秋も 袖はぬれけり (同 / 慈圓)
[本文注記] 第四句「ことしの秋も」の「も」
の右に「けふい」あり。

▽ [ことしのけふも] 1-8 新古今 841、5-177
慈鎮合 88

(349：そ 18) 袖にふけ さそな旅ねの 夢もみし
おもふかたより かよふうら風 (同 / 定家)

3-133 拾遺愚 2681、5-259 三体和 24、5-278
自讃歌 100、5-343 正徹語 79、10-206 歌林良
283、▽ [夢はみじ] 1-8 新古今 980

(350：そ 19) それなから むかしにもあらぬ 秋
風にいとゝなかめを しつのをたまき (新古今
/ 式子内親王)

1-8 新古今 368、5-345 心敬私 29、10-177 定家
八 407、10-206 歌林良 444、▽ [むかしにあ
らぬ] 5-308 詠歌大 43、▽ [月影に] 4-1 式子
53、5-278 自讃歌 20

(351：そ 20) 袖にしも 月やとれとは 契りをか
す 涙はしるや うつの山こえ

5-235 新時代 35、▽ [月かかれとは] 1-8 新古
今 983、5-203 元久合 96、10-123 新三撰 347、
10-181 歌枕名 5228

(352：そ 21) 袖の浦の なみ吹かへす 秋風に 雲
のうへまですゝしからなん (新古今 / 中務)

1-8 新古今 1497、▽ [はまかぜに] 7-10 中務
49、▽ [すずしかるらん] 10-181 歌枕名 6862、
▽ [はまかぜは] [そらのうへまで] 3-24 中務
124

(353：そ 22) そのかみの 玉のかさしを うち返
し 今ほころもの うらをたのまん (同 / 東三条院)

1-8 新古今 1712、10-177 定家八 1505

(354：そ 23) そむけとも 天の下をし はなれね
は いつこにもふる 涙なりけり (同 / 一)

▽ [いづくにもふる] 1-8 新古今 1744、▽ [い
づくこにもよる] 3-60 保憲女 177

(355：そ 24) そむきても 猶うき物は 世なりけ
り 身をはなれたる こゝろならねは (同 / 寂蓮
法し)

1-8 新古今 1752、4-41 御五十 847

(356：そ 25) 其山と ちきらぬ月も 秋かせも
すゝむる袖に 露こほれつゝ (同 / 家隆)

1-8 新古今 1762、3-132 壬二 3037、5-217 家隆
合 172、5-278 自讃歌 119、10-177 定家八 1565

(357：そ 26) そむかすは いつれの世にか めく
りあひて おもひけりとも 人にしらせん (新古
今 / 寂蓮法し)

▽ [人にしられん] 1-8 新古今 1957、5-223 時
代不 204、10-10 法門百 5、10-177 定家八 1794

(358：そ 27) 袖ひちて むすひし水の こほれる
を 春たつけふの 風やとくらん (古今 / 貫之)

1-1 古今 2、2-3 新撰和 1、2-4 古六帖 2、2-6
和漢朗 7、5-291 俊頼髓 97、5-294 奥儀 433、
5-299 袖中抄 864、5-301 古来風 216、5-302
歌色葉 228、5-329 桐火桶 39、10-196 色葉和
419、10-202 玉伝和 11、10-211 伊勢注 274

(359：そ 28) 其も猶 けふこそ主の 身にはしめ
こゝろよりふく 秋のはつかせ

3-131 拾玉 1759、5-177 慈鎮合 166

(360：そ 29) そむくとて 雲にはのらぬ 物なれ
と 世のうき事そ よそになるてふ (伊勢物語/
業平)

1-20 新後拾 1302、2-4 古六帖 1449、3-6 業平
71、5-415 伊勢語 17、▽ [うきよのなかぞ]
7-2 業平 14

(361：そ 30) その原や ふせやにおふる は、
木、の ありとは見えて あはぬ君かな (—/坂
上是則)

1-8 新古今 997、10-177 定家八 913、10-181 歌
枕名 6612、10-196 色葉和 69、▽ [ありとは
見れど] 5-291 俊頼髓 286、5-292 綺語抄 729、
5-293 童蒙 695、5-296 和歌初 138、5-299 袖中
抄 926、5-302 歌色葉 392、10-212 源氏注 564、
▽ [ありとてゆけど] 2-4 古六帖 3019、5-8 定
文合 28

3. 解題

歌頭が「ち」「を(お)」「わ」「か」「よ」「た」「そ」
の各 30 首と「ぬ」10 首、あわせて 220 首のうち、
和歌本文に対する注記は、17 首の歌に見られる。
他出歌集の本文に一致する場合が多いが、(185：
を 4) (269：か 28) (287：よ 16) の 3 首につい
ては、傍書が他出本文と一致しない。さらなる検
討を要する。墨消は、(295：よ 24) に一箇所あ
るが、明らかな書き誤りの訂正である。

和歌本文の表記について、歌頭が「を」の歌では、
「おも影の」(184：を 3)、「をきて見は」(185：を 4)
といったように、「を」と「お」が混在している。
仮名遣いに関しては、前稿同様、統一しようとい
う意識はない。

『新編国歌大観』によって他出歌集を検すると、
やはり前稿と同じく、勅撰集では『新古今集』(93
首)、『古今集』(46 首)が圧倒的に多い。一方、『万
葉集』が採歌対象から外れていると考えられるの
も同様で、本稿において唯一の万葉歌 (223：わ
12) も、『続古今集』収載歌である。

また、『新編国歌大観』の範囲内ではあるが、
他出が唯一である歌には、次のようなものがある
(通し番号の後に「*」を付しているものは、本文
異同を有する用例)。

1-1 古今 (162：ち 21) (228：わ 17)

1-8 新古今 (189：を 8) (328：た 27*) (347：
そ 16)

3-129 長秋 (344：そ 13)

3-130 月清 (175：ぬ 4) (332：そ 1) (340：
そ 9)

3-131 拾玉 (329：た 28)

3-132 壬二 (177：ぬ 6*)

3-133 拾遺愚 (176：ぬ 5*) (236：わ 25) (243：
か 2)

5-367 太平記 (308：た 7)

5-421 源氏 (210：を 29) (234：わ 23*) (257：
か 16) (258：か 17*)

8-10 草根 (244：か 3)

10-87 三十番 (251：か 10)

前述の『古今集』『新古今集』の用例が存する
中、前稿でも指摘した六家集のうち、『長秋詠草』
『秋篠月清集』『拾玉集』『壬二集』『拾遺愚草』所
載歌の存在には注意される。刮目すべきは『源氏
物語』で、前稿でも物語中の和歌が採られている
という点で着目していたが、本稿で採り上げた範
囲内で、まとまった用例数が得られたということ
は、特記すべきであろう。

集付の記載は、全部で 158 箇所 (同じ歌に 2
つの集付を示すのはそのうち 4 箇所) ある。大
半は正確なものと思われるが、たとえば、(223：
わ 12) が、「古今」「赤人」と記すものの、赤人
歌として当該歌を載せるのは『続古今集』である
など、若干の問題が存する。「山家抄」と記され
る (208：を 27) も、『西行家集』には載っては
いるが、『新編国歌大観』所収『山家集』には収
載されない。

さて、集付の最も多いのは、「新古今」(64 箇
所)である。新古今歌の 7 割近くに集付があるこ
とになる。次いで「古今」(42 箇所)挙げられる
が、古今歌の 9 割以上を占める点では、先の『新
古今集』を上回る。その他の集付の数は、以下の
とおりである。

「伊勢物語」	12 箇所
「拾遺愚抄」	10 箇所
「長秋抄」	8 箇所
「源氏」	6 箇所
「千載」	6 箇所
「月清抄」	5 箇所

「壬二抄」	4 箇所
「拾玉抄」	2 箇所
「山家抄」	2 箇所
「百人一首」	1 箇所

作者名は、138 箇所に記されている。おおむね正確ではあるが、問題点は少なくない。

まず、作者名の墨消が、(192:を11)に一箇所見られる。元来は作者名「慈圓」に「俊成イ女イ」という異文注記が付されていたものが、後に本行の「慈圓」が消されたものと推定される。他出歌集に拠れば、作者は俊成卿女である。

作者の誤りは、他にもある。(156:ち15)の「二條院」は、「二條院讃岐」が正しい。また、(191:を10)の「俊成」は「俊成女」である。いずれも、正確な作者名の一部のみが記されるかたちである。また、(303:た2)の「慈圓母」は「慈圓」が、(305:た4)「定家」は「定家母」が、それぞれ正しい。これら二首の歌は、一首をはさんで近接していることから、「母」一文字を記す位置を誤ってしまった可能性がある。「寂然」の歌を「寂蓮」とする(230:わ19)(357:そ26)の二首も、歌人名が類似することに起因するものと見られる。他にも、「西行」を「経信」とする(296:よ25)といった例もある。

さらに、出典未詳歌のうちの1首、(195:を14)に、「小町」と作者名が記されている。どのような資料による判断であるのか、さらなる検討を要しよう。

なお、『伊勢物語』の二首の歌について、「有つね」(170:ち29)、「有常むすめ」(260:か19)と記すが、物語本文にこれらの作者名は明記されない。しかし、170番歌は、『三五記』と『和歌密書』の他、『伊勢物語』の古注釈書中、『十卷本伊勢物語注』『増纂伊勢物語抄』『伊勢物語奥秘書』(以上、片桐洋一氏・山本登朗氏責任編集『伊勢物語古注釈大成』第一巻〈2004年10月、笠間書院〉所収。)や『冷泉家流伊勢物語抄』(片桐洋一氏『伊勢物語の研究〔資料篇〕』〈昭和44年1月、明治書院〉所収。)が、作者を有常とする。また、260番歌の場合は、上記の『伊勢物語』の古注釈書四編に加え、『伊勢源氏十二番歌合』(『伊勢物語の研究〔資料篇〕』所収。)が、有常女の作としている。総じて冷泉家流の『伊勢物語』古注釈において見られる見解のようであるが、あるいはこのことが、本書の成立を考える上で、今後、何らかの手掛かりになるか

もしれない。

最後に、出典未詳と考えられる歌は、全部で15首存する。(278:よ7)から(280:よ9)の3首が連続しているなど、用例の分布には偏りがあるように思われる。

附記

本稿は、同志社大学文化情報学研究科における2013年度春学期の授業「日本古典文学情報特論1」の内容の一部であり、また、「伝統文化形成に関する総合データベースの構築と平安朝文学の伝承と受容に関する研究」(同志社大学人文科学研究科第18期研究会第17研究、および科学研究費助成事業基盤研究(C)課題番号25330403、いずれも平成25～27年度)における研究の一部である。

用例収集に際し、『新編国歌大観』CD-ROM版Ver.2とともに、竹田正幸氏(九州大学大学院システム情報科学研究院)作成の文字列解析器“e-CSA Ver.2.00”を使用した。

なお、『伊勢物語』の歌の作者名については、国文学研究資料館の藤島綾氏に御教示いただいた。ここに御礼申し上げる。